一般社団法人日本神経化学会
2022 年度第 1 回理事会議事録

日 時：　　2022 年 3 月 5 日（土）　13:00～16：00
場 所：　　Web 会議　（ホスト会場：一般財団法人国際医学情報センター内会議室）
出席者：　（以下、Web による出席）
　　執行部：　岡野栄之(理事長)，竹居光太郎(副理事長)，照沼美穂(庶務担当)，村松里衣子(会計担当)，等 誠司(出版・広報担当)
　　理事：　味岡逸樹（国際対応委員会委員長)，荒木敏之，今泉和則(研究助成金等候補者選考委員会委員長)，小野賢二郎(倫理委員会委員長)，竹林浩秀，田中謙二（将来計画委員会委員長)，堀修(利益相反委員会委員長)，牧之段学(シンポジウム企画委員会委員長)，望月秀樹（臨床連携委員会委員長)，和中明生（第 64 回大会長）　以上 50 音順
　　監事：　馬場広子、和田圭司　　以上 50 音順
　　計 17 名（理事 15 名、監事 2 名）
欠席者：なし　計 0 名（理事 0 名、監事 0 名）
陪席者：委員長等：小泉修一(法人化推進委員会委員長)，澤本和延(優秀賞・奨励賞選考委員会委員長，　林（高木）朗子(脳研究推進委員会委員会委員長)，
　　事務局：2 名
　　計 5 名　（尾藤晴彦(連合大会・多分野交流委員会委員長)は欠席）

定数15名に対し、15名の理事の出席があり、定款の規定により本理事会は適法に成立した。また、定款の規定により岡野理事長が議長となり、出席者全員の音声が即時に他の出席者に伝わり出席者が一同に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した後に開会を宣し、直ちに議事に入った。

【報告および決議事項】

【報告事項】

1. **2021年度第2回理事会議事録承認について**

岡野栄之理事長より，先般持ち回り審査を行い，承認が得られている旨報告があった。

2. **理事長報告**

岡野栄之理事長より，当会運営について，以下の通り報告があった。
・一般社団法人への会員および財産の移管および役員の登記変更を完了した。
・Neuro2022 に向け準備を進めている。
・フラグシッププロジェクトを立ち上げ、今後、本学会が重点的に進めていくトピックにつ

き議論を開始している。文科省などへの働きかけも継続していく。
・分子、疾患研究、グリア細胞といった本会が特徴としている分野を強みにトランスレーションリサーチをやっていく。

3. 庶務報告

照沼美穂庶務担当理事より，以下の通り報告があった。

◆会員状況について

会員数動向としては，入会と退会がほぼ同じ。

◆会員資格喪失（会費滞納 4 年）について

評議員 2 名を含む 47 名が会員資格喪失となった。

◆功労会員・評議員・団体会員の退会について

退会希望者については慰留をしているが、結果退会となっている。

団体会員は、３つの図書館が退会。

4. 会計報告

村松里衣子会計担当理事より，以下の通り報告があった。

◆年会費未納者について

本年度中に未納が解消されない 2019 年からの長期未納者については，本年度末付で会員資格喪失（退会処理）となる為，引き続き納入喚起を行う。お知り合いの方がいらっしゃる場合は、先生方からもコンタクトいただきたい。

◆2021 年度税務申告について

任意団体にて、2021 年度の税務申告を済ませ法人税 70,000 円(昨年と同じ)を納めた。なお，消費税は，2019 年度収益が 1 千万円以上であったため，その 2 年後である 2021 年度は納税義務が発生し，消費税 69,600 円を納めた。なお，2020 年度は，収益が 1 千万円以下であったため，2 年後の 2022 年度には納税義務が発生しないが、法人には引き継がれない。

◆2021 年度監査について

2022 年 2 月 18 日に事務局所在地にて，2021 年度決算について和田圭司監事によって会計監査が行われた。その結果，収支内容及び財政状況について正しく示されている旨認められた。

▶ 和田圭司監事より，追加で以下の通り報告があった。

・任意団体での収益事業の累積赤字は、法人には引き継がれない。

・第 64 回大会の運営会社からの支払額が少ない（運営会社が損をしている）件があったが、運営会社側がよしとするならば、会計上の問題はない旨税理士より説明があった。

5. 出版・広報報告

等誠司出版・広報担当理事より，以下の通り報告があった。

◆機関誌「神経化学」について

Vol.60　No.2　は発行が遅延しているが近日中発行予定。

Vol.61　No.1　は 2022 年 4 月入稿、6 月末発行予定。

◆大会抄録 HP 掲載

第 64 回日本神経化学会大会抄録集をホームページへ掲載済み。

6. 委員会報告

(1)将来計画委員会

田中謙二委員長より，以下の通り報告があった。

・脳研究推進委員会と協同で「神経化学フラグシッププロジェクト」をまとめ、文科省と脳科連に学会の強みをアピールした。

・若手セミナー、若手道場に続く本会の 3 つ目の目玉の取組みを作って行きたい。

▶ 牧之段理事より、文科省での会議について、開催はまだ 1 回のみで、若手育成について議論はされているが何も方向性が決まっていない状態であるとの報告があった。

▶ 岡野理事長より、企業との連携について組織立った動きが出てきた。今後はライフサイエンス委員会が今後は中心となっていくと思われるため、本会も存在感、影響力を増していきたいとのコメントがあった。

(2)出版・広報委員会

(5. 出版・広報報告にて報告済みのため、割愛)

・「奈良宣言」についてホームページへ掲載することとなった。

(3)シンポジウム企画委員会

牧之段学委員長より，以下の通り報告があった。

・2023 年神戸大会（神経病理との合同大会）のシンポジウムについて検討中。先生方からもご意見をいただきたい。

▶ 今泉大会長より、合同の意味が深まるようなシンポジウムを企画したい。神経病理の望月大会長と教育セミナー的なものについても検討しているとのコメントがあった。

(4) 国際対応委員会

味岡逸樹委員長より，以下の通り報告があった。

・鍋島トラベルアワード（海外→日本）(Neuro2022)：応募なし。
・2022 年 ISN/APSN 京都大会およびアドバンスドスクール：ISN が 3 月中に開催有無を決定予定。オンラインやハイブリット開催の可能性は極めて低い。
・APSN 理事選は 2022 年春に実施。ISN 理事の和中先生が立候補されないため、大阪大学の池中健介先生が立候補することとなった。

(5)研究助成金等候補者選考委員会

今泉和則委員長より，以下の通り報告があった。

・2021 年 10 月から 2022 年 2 月における学会推薦公募案件について
公募案件は 6 件あった。うち、猿橋賞に 1 件応募があり 1 件推薦。山田研究援助に 2 件応募があり 2 件とも推薦した。
・22021 年 10 月から 2022 年 2 月までの推薦後の選考結果について
採択なし

(6)脳研究推進委員会

林（高木）朗子委員長より，以下の通り報告があった。

・脳科学の将来構想委員会にてフラグシッププロジェクトについて発表し反響はあるものの次が打てていない。神経科学会も同じようなものを立ち上げてくる予想。いかに概算要求に盛り込めるかが今後も課題。

▶ 小泉委員長より、将来構想委員会での発表はインパクトがあったが、次の一手がほしいとのコメントがあった。
▶ 望月理事より、学会に行政などを呼ぶなどの取組はどうかとのコメントがあった。
▶ 竹居副理事長より、産学連携委員会などを立上げるはどうかとの提案があった。
▶ 岡野理事長より、秋ごろにシンポジウムをやるのはどうかとのコメントがあった。
▶ 田中理事より 2023 年の合同大会でのシンポジウム開催提案があり、今泉大会長より現時点ではまだ枠に余裕がある旨回答があったが、2023 年では遅すぎるのではとの

意見もでた。

- 味岡理事より、2022 京都大会（8 月）の前後でも予定を開けている先生がいるため、時期をあわせて開催することは可能とのコメントがあった。
- 竹居大会長より、Neuro2022 のサテライトはまだ締め切っていないため検討いただきたいとの提案があった。

(7)優秀賞・奨励賞選考委員会

澤本和延委員長より，以下の通り報告があった。

・2022 年度優秀賞・奨励賞募集について、委員会を開催し応募者を増やす方法、副賞などについて検討を行った。従来の自薦のみから他薦も可とする案が出た。また、若手道場の採点用紙に候補となりそうな研究者を審査員に記載いただく案が出た。但し、合同大会の場合は運用を調整することとする。（規定／内規の改定については審議事項にて審議）

(8) 連合大会・多分野交流委員会

尾藤晴彦委員長に代わって小泉修一委員より，以下の通り報告があった。

・多分野交流シンポジウム Neuro2022 の内容が決まった。
タイトル：「分子神経科学への有機合成化学からのアプローチ」、
オーガナイザー：味岡逸樹先生（東京医科歯科大）、
演者１：上杉志成（京都大）、演者２：村岡貴博（東京農工大）

タイトル「分子神経科学‥」については「分子神経化学‥」へ変更することとなった。

(9)利益相反委員会

堀修委員長より，特段の報告事項は無いとした。

(10)ダイバーシティ推進委員会

村松里衣子委員長より，以下の通り報告があった。

・猿橋賞候補者についてメール審議を行い 6 名を執行部へ推薦。
・Neuro2022 のダイバーシティ推進企画の演者について東田先生へ報告済み。
・男女共同参画学協会連絡会へオブザーバ参加を実施。

(11)臨床連携委員会

望月秀樹委員長より，以下の通り報告があった。

・神経学会（5 月）学会にてシンポジウム開催。小泉先生に講演いただいた。
・2023 年合同大会について、神経病理学会側の大会長は望月委員長。臨床の先生方に多く参加いただけるよう、「神経病理の入門コース」というシンポジウムを企画中。
・神経学会会員で本会の評議員になってる方が少ないため、中堅の先生方に入会いただき、そこから若手も増やしていきたい。

(12)倫理委員会
小野賢二郎委員長より特段の報告事項は無いとした。

岡野理事長より今後、大会での演題登録に関して、臨床研究や橋渡し研究では各施設倫理委員会の承認番号などの情報を記すよう会員に徹底していくべきだとのコメントをいただいた。

(13)若手育成委員会
照沼美穂委員長より，以下の通り報告があった。

・若手育成セミナーNeuro2022 は募集開始。1 月末時点で 50%強。2/3 が本会会員、残りが科学会員、神経回路からは応募無し。来年の世話人も決定し準備を開始している。
・若手道場の枠について 22 セッション。前回 Neuro2019 は 18 セッション（54 名全員採択）。今回は 2.5 倍以上の応募。66 演題を 88 に増やした。現時点で本会会員の採択率が不明であるが、合同大会の際の採択については対策を考える必要がある。

(14)法人化推進委員会
審議事項 9 にて審議とした。

7. 脳科学関連学会連合について

岡野理事長より、脳科連にて産学連携の議論について報告があった。
第 28 回運営委員会にて会費値上げ、産学連携諮問委員会の設置について承認された。その後の評議員会では、産学連携諮問委員会の設置について不承認の意見も出たが承認された。法人会員制度も導入となり、26 法人から申請があり全て入会承認された。COI 委員会の設置も承認された。今後、賛助会員にもメリット、各学会と脳科連との棲み分けも考えていく必要がある。

8. 生物科学学会連合について

竹居副理事長より、以下報告があった。
・ライフフサイエンスの 32 団体による団体、学術会議会員問題への意見の募集があった。
・「気候変動が生物多様性に与える脅威―地球はどのくらい危機的状況か―」シンポジウム

を行い、その動画を本会会員へも紹介した。
・DORA 研究評価のサンフランシスコ宣言に日本の学会も賛同するかについて採択された。
・生物学の用語の整理を行った。入試の指針として学術会議へ提出した。
・沖縄にて自然史博物館の建設が決定。

9. 男女共同参画学協会連絡会について

報告事項 6-(10)にて報告とした。

10. 第 64 回大会（2021 年度）会計報告について

和中明生大会長より，以下の通り報告があった。

〈第 64 回(2021 年度)大会〉
会期：2021 年 9 月 30 日（木）～10 月 1 日（金）2 日間、Web 上での開催

・Web 開催に伴い会場費が無くなり発生した余剰金については、学会へ返金した。
・会計処理に運営会社の不手際があったが最終的には決着した。

11. 第 65 回大会（2022 年度/ Neuro2022）について

竹居光太郎大会長より，以下の通り報告があった。

〈第 65 回(2022 年度)大会〉(Neuro 2022 合同大会)
会期：2022 年 6 月 30 日（木）～7 月 3 日（日）4 日間
場所：沖縄本島　宜野湾（ぎのわん）コンベンションエリア

・現時点で、一般演題 1384 演題集まっている。うち学部生が 100 名と多い。LateBreak 含めて 1500 演題を超える見込みで、2019 年 Neuro と同様レベル数となる見込み。
・一般講演、ポスターの枠組みを設定し、座長をこれから決定していく。
・評議員会は 7 月 1 日の昼に開催の枠を予定している。議題を今後理事長に決定いただく。
・ハイブリッド開催可否については 3 月 25 日に決断する予定。外国からの参加者はオンラインになる予想。国内の発表者はできるだけ会場で発表いただけるよう進めている。
・沖縄県知事に来賓として挨拶いただく予定。最終日は同会場にて花火大会開催予定。
・サテライトは 4 月 5 日まで募集中。ランチョン、企業展示はまだ少ないため先生方からもご紹介ご協力いただきたい。

12. 第 66 回大会（2023 年度）について

今泉和則大会長より，以下の通り報告があった。

〈第 66 回(2023 年度)大会〉（日本神経病理学会との合同大会）
会期：2023 年 7 月 6 日（木）～8 日（土）3 日間
場所：神戸国際会議場　（懇親会：ポートピアホテル）

・運営事務局はコンベンションリンケージ。
・日本神経病理学会の大会長は望月秀樹先生。昨年より実行委員会を開催し、大枠のプログラムは決定。プログラム委員長は本会からは木山先生。
・プレナリー講演は 2 名決定。追加 1 名は検討中。竹居 65 回大会長と確認し、本会で企画するシンポジウムの枠について漏れが無いよう一覧で確認している。
・企業の協賛獲得活動も 2022Neuro 終了後に具体的に活動開始する。
・若手育成セミナーについても準備着手。世話人決定。病理学会からの参加は、本会会員に入会することを要件とする予定。
・現時点では現地開催にて進めている。
  ▶ 竹居 65 回大会長より、次期大会長は前大会の企業ブースを回っていただく慣例についてコメントがあり、沖縄でも今泉大会長が実施することとなった。

13. 第 67 回大会（2024 年度）について

小泉修一大会長より，以下の通り報告があった。
〈第 67 回(2024 年度)大会〉(Neuro 2024 合同大会予定)
日本神経科学学会、日本生物学的精神医学会と合同にて Neuro2024 として開催。
会期：2024 年 7 月 23 日（火）-27 日（土）
場所：福岡国際会議場/マリンメッセ B
詳細についてはこれから決まっていく予定。

【審議事項】

1. 名誉会員の推薦について

照沼美穂庶務担当理事より報告があり、審議の結果、資料の 3 名について、総会への推薦が承認された。
来年度の候補については名簿をご確認いただき、候補を挙げていただきたい。

2. 功労会員の推薦について

照沼美穂庶務担当理事より報告があり、審議の結果、資料の 10 名について総会への推薦が承認された。(理事会後に、1 名追加となり、11 名を総会へ総会することになった。)

3.　2021 年度決算について

村松里衣子会計担当理事より，2021 年度予算について報告があり，承認された。

・2021 年度一般会計決算について

一般会計については，大会からの余剰金により、約 242 万円の黒字となった。収入の部では会費回収額が予算に対して 87.3%と、前年の 80%より改善している。しかし実績回収額は 1,000 万円を切っているので，演題登録者への納入徹底など対策を継続して講じていく。昨年同様、WEB 開催により，鍋島トラベルアワードは支出がなく，若手セミナーも事務費のみの支出であった。

4.　優秀賞・奨励賞について

澤本委員長より、規定／内規改訂(案)について報告があり、理事会で審議の結果、満場一致で、以下の内容にて決定された。

１）推薦：会員からの自薦のみ⇒自薦または他薦いずれも可とする

２）奨励賞の年齢制限：35 歳未満⇒学位取得後 7 年未満とする。

5.　法人化後の細則について

小泉修一委員長より、法人化の細則案について説明があり、承認された。

従来から実質的に大きな変更がないよう運用を定めた。主なポイントとしては、理事の任期が 4 年から 2 年に変更になるため、2 年任期満了後に信任選挙を行い継続可とした。また、選挙については、法人では正会員に選挙権が無いため、正会員による理事候補選挙を実施することで補完する。その他、学生会員、若手会員の自動移行についても記載した。

6.　その他

特に追加の審議は無かった。

岡野理事長は、以上をもって本会の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

以上の決議を明確にするため、岡野理事長が本議事録を作成し、以下に記名押印する。

2022 年 3 月 5 日

一般社団法人日本神経化学会

理事長　　岡野栄之　　印　　捨印

監事　　和田圭司　　印　　捨印

監事　　馬場広子　　印　　捨印